

# デンマークにおけるコロナ禍と子どもの 「いのち・生活・発達の危機」の動向

石井 智也<sup>1</sup>・能田 昂<sup>2</sup>・田部 絢子<sup>3</sup>・高橋 智<sup>4</sup>

(1: 東海学院大学人間関係学部子ども発達学科、2: 尚絅学院大学総合人間科学系教育部門、  
3: 金沢大学人間社会研究域学校教育系、4: 日本大学文理学部教育学科)

## 要 約

本稿では北欧福祉国家のデンマークにおける Covid-19 による子どもの「いのち・生活・発達の危機」の実態とそれに対する発達支援の動向について検討してきた。デンマークは Covid-19 に対して柔軟かつ迅速な対応をとってきた。また子どもをパンデミックの当事者として承認する姿勢も評価される。しかし、高度な福祉国家とされるデンマークにおいてもパンデミックの影響は深刻であり、子どもの「いのち・生活・発達」が多様な困難に晒されていた。急激な学校環境の変容や家庭でのオンライン学習により、多くの子どもが多様な不安や困難を抱え、とくに障害・疾病等の特別ニーズを有する子どもの抱える困難は深刻であることが明らかになった。子どもの声・ニーズを起点として学校教育・教師の意義・役割が再評価され、課題が浮かび上がってきている。Long Covid 等の未検証の課題も含めて、今後も Covid-19 による子どもの「いのち・生活・発達の危機」の実態とそれに対する発達支援の動向について注視する必要がある。とくに、コロナ禍における子どものセーフティーネットおよび子どもの成長・発達に不可欠な支援システムとしての学校教育・教師・クラスメイトの意義・役割・機能についての検証は重要な課題である。

キーワード: デンマーク、Covid-19、コロナ禍、子どもの「いのち・生活・発達の危機」、北欧福祉国家

## 1. はじめに

新型コロナウイルス感染症（以下、Covid-19）は、子どもの成長・発達、生活・学習等に多大な影響を及ぼしている。感染症そのものへの不安・恐怖、常に自粛・我慢を強いられる先行きの見えない生活の中での抑うつや孤独・孤立、一斉休校によるストレスや登校に困難を感じる子どもの増加、子どもの自殺者数の増加など、深刻な影響がすでに顕在化しつつある（山野：2021、朝日新聞：2021）。

コロナ禍によって社会が急激に変わり、すべての人々が不便・困難を強いられて「総障害者化」したとも表現されるなか、「現場から声を吸いあげて、そこから組織全体が絶えず学習して、そして適切できめ細やかな対応をとっていく」ことの重要性が指摘されている（NHK：2020）。こうした異常事態のなかで「感染対策」は「大人」中心の体制維持が優先されがちであり、子ども当事者の声・意見をもとに、子どもの「いのち・生活・発達の危機」の実態とそれに対する発達支援のあり方について検討していくことの意義は大きい。

2020 年の感染拡大当初から世界的に学校閉鎖が実施

されるなか、学校給食やメンタルヘルスおよび心理社会的支援といった学校を拠点とする子どもの発達やケアに不可欠なサービスの混乱、「仲間との相互作用の喪失」や「日常生活の混乱」によりストレスや不安を引き起こす可能性が指摘されてきた（UNICEF：2021）。急激な社会変化に伴う社会的孤立と子どもの急性ストレス障害・適応障害・心的外傷後ストレス障害との関連も指摘される（Loades ら：2020）。

しばしば高度な福祉国家として取り上げられる北欧諸国（スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、フィンランド、アイスランド）もその例外ではない。これらの国々は社会システム（社会保障・福祉、教育・特別ケア、医療・公衆衛生）において類似性が高いが、Covid-19 による感染者数やその対応等において差異がみられ、多様な対策が手探りで実施されてきた。

スウェーデンは北欧諸国のなかでも独自の対策を採用し、例えば、ロックダウンや一律の学校閉鎖を行わないことで子どもの学習権の保障が図られたが、一方で感染者数の増大を招いた（能田ほか：2021）。スウェーデンだけでなく、ノルウェー・フィンランドにおいてもパンデ

## デンマークにおけるコロナ禍と子どもの「いのち・生活・発達の危機」の動向

ミックの影響は深刻で、子どもの生活や学びが多様な困難に晒されているが、子どもの声を起点として教師・学校教育の意義・役割も改めて浮かび上がってきている(高橋ほか：2022)。

子どもが置かれている実態、その差異や共通性に基づいてコロナ禍拡大でもたらされる子どもの「いのち・生活・発達の危機」の実態とそれに対する発達支援のあり方について比較検討することは緊要な課題である。

北欧諸国のなかでもデンマークは対応が迅速であり、2021年9月には感染症拡大防止のための制限措置を一旦撤廃するに至った(2021年11月末現在、本稿執筆時には再導入)。

本稿では、能田ほか(2021)および高橋ほか(2022)の作業を継続して、北欧福祉国家のデンマークにおけるCovid-19による子どもの「いのち・生活・発達の危機」の実態とそれに対する発達支援の動向について検討する。

## 2. デンマークにおけるコロナ禍と子どもの「いのち・生活・発達の危機」の実態と発達支援の動向

### 2.1 デンマークのCovid-19の感染動向

デンマークでは2020年2月27日に最初の感染が確認され、ヨーロッパで2か国目となるロックダウンを宣言した。

3月11日にフレデリクセン首相によって感染対策・制限が発表され、全ての高校・大学・図書館・屋内文化施設等がまず2週間閉鎖され、3月16日からは全ての国民学校・保育所等が2週間閉鎖された。Covid-19に対する高齢者の脆弱性のため、祖父母は孫等とは接触しないことなどが推奨された。3月18日からさらに多くの制限が有効になり、10人以上を公共の場で集めることは違法になり、全てのショッピングセンター・店舗が閉鎖された。この時、政府は「共同責任」と「コミュニティ精神」という2つの意味合いを持つ「samfundssind」という言葉を提示し、国民に実践するよう求めた。

第一波の特徴は感染者に比して死者数が多いことであった(図1)。第一波の抑制は早くに成功したが、他の国々と同様に感染拡大と抑制を繰り返してきている。

2021年9月、デンマークは全てのCovid-19関連の制限を解除し、EUでパンデミック以前の日常生活を取り戻した最初の国家となった。濃厚接触者となった子どもが学校を休む必要性やマスク着用義務もなくなった。

デンマークの保健当局はワクチン接種率が高く重症化や死亡者の発生率が低いため、ウイルスが「もはや社会に

とって重大な脅威ではない」と宣言している。デンマークでは一貫して情報の一元化がなされ、国民の政府への信頼度が高いことに加え、子どもへの記者会見なども含めて、子どもも社会の一員であるという姿勢、学校再開までのプロセスの成功事例も評価されている。

しかし、2021年9月中旬には200人強だった1日あたりの新規感染者数は、11月上旬に2300人前後を記録するようになり、「防疫パス」が再導入されることとなった。本稿執筆時(2021年11月末現在)、隣国ドイツも過去最多となる劇的な感染第4波に見舞われており、ヨーロッパでは再拡大が深刻化しつつある。デンマーク(人口約580万)では434,798人の感染と2,786人の死亡が確認されている(2021年11月19日現在)(図1)。

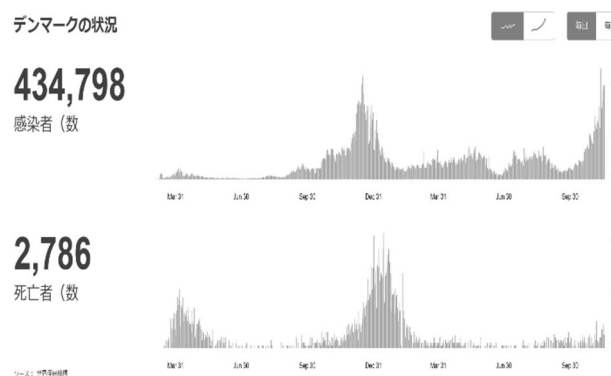


図1 デンマークにおける感染拡大の推移 (WHO)

2021年11月19日現在

(<https://covid19.who.int/region/euro/country/dk>)

### 2.2 デンマークのコロナ禍における学校教育の動向

2020年3月13日に全ての教育機関が閉鎖され、デイケアも3月16日から封鎖された。高等教育機関も含めて学校教育はオンライン体制に移行した。3月23日には2週間の延長が発表された。この時、教育大臣は子ども・保護者・教師へのメッセージを欠かさなかった。「子どものためにしっかりと努力しているすべてのスタッフに深く感銘をうけている」と発信した(BØRNE- OG UNDERVISNINGSMINISTERIET: 2020a)。

首相は子ども記者会見も実施し、「Ultra Nyt (9~14歳の子どものためのニュース番組)」で子ども達の疑問に回答した(DR: 2020)。ノルウェーが先駆けて行った子ども記者会見に倣っているが、フレデリクセン首相は若者に向けても丁寧に発信をしている。動画を通じて、多くの機会を失い我慢を重ねている若者たちに対して、深い共

感を示しながら、市民としての責任を果たしていることへの感謝のメッセージが伝えられた。お互いを守ることによって若者も含めてまさにいま新たなデンマークの歴史を作っていること、誰もが互いにしっかりとつながったコミュニティの一員であることを強調した(写真1)。首相らによるこうした情報発信は、子ども・若者をパンデミックの当事者として社会的に承認する姿勢として評価される。



写真1 若者に語りかけるメッテ・フレデリクセン首相  
(<https://www.youtube.com/watch?v=IKK4m5br-6g> より)

その後、デンマークは欧州でいち早く学校再開に踏み切った。感染者の減少などを受け、外出制限導入から約一カ月後の2020年4月15日に保育園や小学校を再開させた。とくに家庭学習が難しいとの理由で年少児が優先された。1教室に子ども10人強までとし、机は2メートル以上の間隔、運動場の利用も4人のグループが指定され、登校時間もずらず対応を行った。「大好きな友人をハグできない」等、以前とは異なる学校生活に戸惑いの声も聞かれた(BBC:2020)。第2段階として5月18日には6年生以上の生徒も登校可能となった。

感染の不安から登校を拒む保護者も続出した。Facebookで「Mit barn skal ikke være forsøgskanin for covid-19 (私の子どもはコロナのモルモットではない)」と題したグループページが作成され、一時は約4万人が登録した(2021年11月22日現在は34,818名に減少)。

こうした保護者の反応もあり、学校再開後も多くの子どもたちは遠隔教育を受けている状況が続いたが、それが学力的にも社会的にも大きな課題を生む可能性があるために教育大臣は遠隔教育の質を強化するためのイニシアチブを提示した。ここでは子ども達の「社会的剥奪」を問題としたことが特徴である(BØRNE-OG UNDERVISNINGSMINISTERIET:2020b)。

教育省と全国保健委員会が協力して作成された学校における感染対策ガイドラインは2020年6月19日に公開され、2020年8月1日から適用されたが、ガイドラ

インは現在も改訂が重ねられ続けている(BØRNE-OG UNDERVISNINGSMINISTERIET:2020c)。

教育大臣が、学校教育分野のコロナ危機に伴う教育活動や日常生活における多様な経験を丁寧に記録していくことの必要性を強調していることも重要な動きである。パンデミックによる危機が学校における緊急医療的対応、学校閉鎖、遊びと学習のための新しいフレームワーク、保護者とのコラボレーション、新しいデジタル学習方法等の様々な影響をもたらしていることが理由である。

(BØRNE-OG UNDERVISNINGSMINISTERIET:2020d)。

2020年夏にいったんは通常通りの教育対応に戻ったデンマークでは政府と「デンマーク教師連合」が協力体制をとった(英国教師組合の場合は政府に対するストライキの姿勢も辞さなかった)。デンマーク教師連合副会長のドルテ・ランゲは「デンマークでの学校再開の成功は政府と教師組合の間の協力によるものであり、常にコミュニケーションを取り、教職員の懸念に早い段階で対処した」と述べている(CBC:2020)。

その後、第2波に対して2020年12月25日からは再度の学校閉鎖を含むロックダウンが導入されたものの、独自の「コロナパス」の導入などの積極的対応がなされた。2021年2月から徐々に学校が再開していくが、欧州委員会・共同研究センター(JRC)の報告書から、デンマークにおける学校教育対応の局面を整理すると表1の通りである(JRC:2021)。

表1 デンマークの学校教育対応の局面

	概要
フェーズ1	2020年3月11日 教育機関の閉鎖発表 子どもの10%が必要なオンライン情報にアクセスしづらい課題があった。
フェーズ2	2020年4月中旬 段階的な学校再開 29.5%の子どもは学校に行くことにネガティブな印象を持っていた。
フェーズ3	2020年12月 国内のクラスター増加 最大の感染者数を出した時期であり、学校やデイケアセンターも含め、再度閉鎖。子どもたちの感染不安、教師らの職場環境への不安も増加。
フェーズ4	2021年2月 徐々に学校再開

## デンマークにおけるコロナ禍と子どもの「いのち・生活・発達の危機」の動向

2021年9月にコロナ規制が解除されると、濃厚接触者となった子どもが学校を休む必要性やマスク着用義務もなくなった。しかし2021年11月現在、学校での感染拡大のなかで再び岐路に立たされている。学校の感染は過去最高レベルとなり、11月19日の報道でソロ、ヘアレウ、フレデリクスンド、オーデンセ、フレデリクスベア、コペンハーゲン、ゲントフテの7つの学校でクラスターが発生して閉鎖に至っている(The Local Denmark: 2021a)。

WHO ヨーロッパ支部は2021年10月29日に、再度コロナ規制が実施された場合でも学校閉鎖は最後の選択肢として強調している。WHO ヨーロッパ地域ディレクターのハンス・アンリ・P・クルーゲは「昨年の広範囲にわたる学校の閉鎖は何百万人もの子どもや青年の教育を混乱させ、とくに子どもたちの精神的および社会的幸福に害を及ぼした。同じ過ちを繰り返すことはできない」と言及しており(WHO: 2021)、パンデミック当初のように強力な学校閉鎖は行われない可能性が高いものの、2021年冬の見通しは立っていない。

### 2.3 子どもの「いのち・生活・発達の危機」の動向

デンマークにおける0歳から9歳までの感染者数は2021年6月15日の段階で約21,000人、10~19歳においては47,000人を超えている(statista: 2021)(図2)。

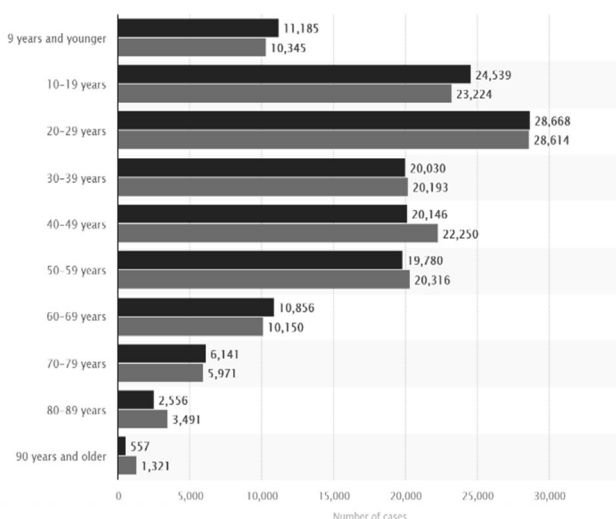


図2 デンマークにおける症例数、年齢および性別  
(<https://www.statista.com/statistics/1103966/number-of-coronavirus-covid-19-cases-in-denmark-by-age-and-gender/>より)

子どもの死者も発生している。2021年2月に1人、2021年7月に詳細は不明であるものの基礎疾患のある5歳の子ども1人が亡くなっている(TV 2 Lorry: 2021)

(Berlingske: 2021)。現在の第5波での特徴は子どもの感染者数が多いことである。デンマーク国家血清研究所(SSI)の2021年11月上旬のレポートでは感染率はワクチン未接種の若者(12~19歳)と学童(6~11歳)で最も高くなっている。Covid-19により入院したデンマークの子どもの数は89人である。子どもが深刻な症状になることは稀であるが、全体の感染者数が多くなればそのケースも増加するとオーフス大学公衆衛生学部のクリスチャン・モーバーク・ウェイゼ教授は危惧している(The Local Denmark: 2021b)。

感染した子どものなかには感染から15カ月、20カ月経過しても、めまい・息切れ・頭痛・吐き気・記憶障害等の後遺症を抱える場合があることがスウェーデンで報告されている(Föreningen Covid19, Skola & Barn)。これは日本においても問題となっているが、正確な実態はつかめていない(毎日新聞: 2021)。

メンタルヘルスへの影響も見逃せない課題であり、急激な社会変化に伴う社会的孤立と子どもの急性ストレス障害、適応障害、心的外傷後ストレス障害との関連も指摘される(Loadesら: 2020)。2020年の学校閉鎖や社会的孤立の影響に関する研究が行われているが、例えばSpechtら(2021)は「自宅軟禁」状態が子どもの感情的行動機能(Emotional-Behavioral Functioning)に悪影響を与える傾向があることなどを明らかにしている。

デンマークの子どもの権利擁護団体Børns Vilkårの発信も重要である。パンデミック下においてすべての大人が、子ども・若者や脆弱な立場にある人々に特別な注意を払う特別な責任があること、子どもの懸念に耳を傾け、事実について丁寧に対話することの重要性を強調している。『デンマークの子どもたちの失望』と題された報告書の結論はまさにパンデミックによって特徴づけられていた。2020年の5万2,700回に及ぶ「子ども電話BørneTelefonen」において、子ども・若者が失望・不満・孤独・親との関係などについて連絡してきていた。閉鎖期間中に孤独を感じる子ども・若者が増加し、コミュニティの一員としての前向きな感覚を得ることが重要であることが指摘された(Børns Vilkår: 2021)。

同報告書によれば、パンデミック以前から何らかの「失望」を感じていた子ども・若者が特に大きな打撃を受けており、被虐待、家庭内紛争・離婚家庭、薬物乱用

の課題を抱えている家族の子どもたちが大きな影響を受けている。学校においてはコミュニティ・帰属意識を再構築するためのリソースを積極的に割り当てる必要があると指摘している。また、ソーシャルワーカーの55%が困難・脆弱な子ども・若者との接触が減少しており、危機感を募らせていた（Børns Vilkår : 2021）。

## 2.4 障害・疾病等の特別ニーズを有する子どもへの対応

2020年3月13日に教育機関の閉鎖が始まり、デイケアも3月16日に封鎖、高等教育機関も含めて学校教育はオンライン体制への移行が判断されたが、以下の子ども・若者についてはオンライン・遠隔授業ではなく、対面授業での教育の実施が指示された。

- ①社会上、教育上、または治療の必要性、家庭の状態によって支援が必要とされる子ども・若者。
- ②国民学校法11章aによれば、特定の住宅地（全体の約30%）に住んでいる子どもや就学前クラスの子どもの言語テストに合格する必要があるため、そうした言語テストを受検する必要がある子ども・若者。
- ③寄宿学校などに在籍し、両親がグリーンランド、フェロー諸島、または海外に居住している子ども・若者、家庭の状態により帰国しなかったり、そうした選択肢のない子ども・若者。
- ④限られた範囲で試験に参加しなければならない子ども・若者。

こうしたグループとその支援については政府与野党の合意・政策協定があり、対応がなされた。Covid-19が社会的不利な立場にある子どもや大人、障害を持つ人々にさらなる課題をもたらしており、社会的孤立や変化した日常生活を乗り越えるのに特に困難を感じていることから対策のパッケージ・財政的支援を決定した。具体的には、アルコールや薬物乱用者の家族であるなどの脆弱な子ども・若者の特別支援1億3,100万デンマーククローネ、ホームレス・暴力被害者・薬物依存症者・精神疾患当事者などの脆弱な成人のための強化された取り組み3,760万デンマーククローネ、障害者の孤立問題3,570万デンマーククローネである（BØRNE- OG UNDERVISNINGSMINISTERIET : 2020e）。

さらに2021年2月3日に議会での支援継続が決定し、新たに2,700万クローネの援助パッケージが定められた（パンデミック下で孤立している障害のある市民の課題解決支援を含む）。

左派政党・赤緑連合（RGA）のPernille Skipper氏は以下のように述べている。「コロナは私たちの社会における不平等を拡大させた。社会が閉鎖され、感染を制限しなければならない場合、困難を抱えている人々はさらに試練を受ける。そして今、多くの脆弱な子どもや若者の状況がさらに悪化している。私たちは社会で最も脆弱な人々に特別な手を差し伸べており、学校やレジャープログラムが閉鎖されている場合でも、子どもとその家族を助けるために大人がいることを確認する必要がある」。こうしたなかで障害者団体支援として、デンマークの障害者統括団体に350万デンマーククローネ、聴覚障害者協会に100万デンマーククローネ等の支援が決定された（SOCIAL- OG ÆLDREMINISTERIET : 2021）。

さて前述のように、2020年前半において障害・特別なニーズを有する子どもの教育は遠隔学習・ホームスクーリングではなく、対面授業で実施されていた。例えばコアセーにある知的障害・発達障害を有する子どもが在籍するStorebæltskolenでは校長のBenjamin Ejlertsenが3~5人の子どもを学校に通わせていた。「学校に行くことが子どもの最善の利益であると信じるなら授業が実施されなくてはならない」「教師として仕事をするならば、まずは子どもに対して直接教えることを期待しています」とも述べており、学校で教師が子どもと向き合うことの重要性が強調された。

2020年12月21日、感染拡大に伴って再度学校閉鎖と遠隔学習・ホームスクーリングが実施されたが、特別学校・特別学級などの子どもやホームスクーリングが困難な子どもについては対面授業の実施が指示された。特別学校は学校を開いたままにしており、子ども・保護者・教職員のために安全な学校づくりに成功している。

なお学校長協会（Skolelederforeningen）は、特別学校がより安全な組織を作る機会を持てるような柔軟性を取り入れるべきであることを強調し、2021年1月に特別学校でもオンライン授業を導入することを進めるガイドライン作成を実施した（Skolelederforeningen : 2021）。

## 2.5 コロナ禍に対する子どもの声・意見

コロナ禍における子どもの意見として、学校再開当時に以前とは異なる学校生活への戸惑いの声が聴かれた。コペンハーゲンのÅlholm基礎学校のSaida Sey君（5年生）は「封鎖が退屈だったので4月に学校を再開したことを嬉しく思っている」「また友達と話したり、サッカーをしたりするのは本当に楽しいです」「学校が始まったと

き、ウイルスはまだ拡大しており、本当に大変だった。それについて考えるのをやめることはできません」、Jeppe Rank Gjerulff 君（5年生）は「緊張していたことを思い出します。誰もコロナが何であるかを知らなかったので、私は少し怖かったです」とインタビューに答えている（CBC：2020）。

Børns Vilkår の「子ども電話 BørneTelefonen」には2020年を通して深刻な声が届けられていた。

- \* 「どうしたらいいかわからない。今は家に閉じこもって 66 日目。寂しいので今の状況は控えめに言っても嫌」（12歳女児）。
- \* 「問題はコロナで本当に孤独を感じることです。家には父しかいません、一緒にいるのはかなり気分が悪いです。毎日喧嘩をしています」（14歳女児）。
- \* 「昨日、私は母の前で完全に壊れてしまいました。母は何が問題なのかを尋ねてきましたが、説明することはできません。問題はあまりにも多く、過去にとっても簡単だったことでも、今とても多くのエネルギーを必要とします。私は人と一緒にいたいという欲求を失いました。学校にも意味を見つけないことができません。ただ泣きたい。そんな自分について本当に気分が悪いです」（14歳女児）。
- \* 「私はとても孤独になり始めています。学校での問題に加えて、家庭でも問題を抱えています。コロナのせいで父は解雇され、新しい服を買うことができず、外に出て友達と食事をすることもできません。コミュニティからさらに遠ざけられています」（13歳男児）。

Danske Skoleelever というデンマークの国民学校の子どもを構成メンバーとする団体も、積極的に情報発信を続けてきた（Danske Skoleelever：2021）（写真2）。Danske Skoleelever 代表の Mikkelsen さんは子どもの声を発信する中心的な役割を担っている。例えば、学校閉鎖のさらなる延長が余儀なくされた際に「毎日先生に会う権利はどこにあるのだろうか？ 1対1の会話など、先生と生徒の良好な関係を維持する権利はどこにあるのだろうか？」などの意見を発信した（Mikkelsen, Mille Borgen：2020）。

### 3. おわりに

本稿では北欧福祉国家のデンマークにおける Covid-19 による子どもの「いのち・生活・発達の危機」の実態とそれに対する発達支援の動向について検討してきた。



写真2 Danske Skoleelever の学校議会の様子  
（<http://skoleelever.dk/>より）

デンマークは Covid-19 に対して柔軟かつ迅速な対応をとってきた。特に学校教育対応において政府当局と教師組合との積極的対話が有効な結果をもたらしている。また子どもをパンデミックの当事者として承認する姿勢も評価される。

高度な福祉国家とされるデンマークにおいてもパンデミックの影響は深刻であり、子どもの「いのち・生活・発達」が多様な困難に晒されていた。急激な学校環境の変容や家庭でのオンライン学習により、多くの子どもが多様な不安や困難を抱え、とくに障害・疾病等の特別ニーズを有する子どもの抱える困難は深刻であることが明らかになった。

なお、子どもの声・ニーズを起点として学校教育・教師の意義・役割が再評価され、課題が浮かび上がっている。例えば、スウェーデンの教育学者の Bergdahl ら（2020）はパンデミックが子どもにもたらす社会的孤立・精神的傷つき等に対して、教師の果たす重要な意義・役割が過小評価されてはならないこと、学校教育におけるルーティンが子どもの心理的安定を促進する上でも大きな機能を有していることを強調している。また Sjögren ら（2021）も、教育はパンデミックによって引き起こされた人的資本開発の喪失を補う上で重要な任務を負っていると指摘している。

北欧諸国ではコロナ禍による子どもの「いのち・生活・発達の危機」に係る研究が増えている。フィンランドにおけるパンデミック下での燃え尽き症候群、子どもの社会感情的スキルや学びのウェルビーイングへの影響に関

する研究では (Salmela-Aro : 2021)、孤独感の増加、帰属意識の低下、アカデミックウェルビーイングの低下等が示されている。

ノルウェーにおいては Saxvig ら (2021) が学校封鎖中の生活環境が睡眠に与えた影響についての高校生調査を行い、就寝時間の遅さがパンデミック以前との顕著な差として指摘されるが、同時に睡眠時間が増加していることがパンデミックによる社会的制限の有害な側面に対するある程度の保護を提供したと肯定的に分析されている。睡眠確保はアイスランドの調査においてもメンタルヘルスのポジティブな要因となることが指摘されている (Halldorsdottir ら : 2021)。

現在、北欧諸国だけでなく、ヨーロッパではドイツや東欧諸国などで感染の再拡大が起きてきている。Long Covid 等の未検証の課題も含めて、今後も Covid-19 による子どもの「いのち・生活・発達の危機」の実態とそれに対する発達支援の動向について注視する必要がある。とくに、コロナ禍における子どものセーフティネットおよび子どもの成長・発達に不可欠な支援システムとしての学校教育・教師・クラスメイトの意義・役割・機能についての検証は重要な課題である。

## 文 献

朝日新聞 (2021) コロナ下の授業「難しすぎる」5割 : 小中高生調査、2021年9月12日。

<https://digital.asahi.com/articles/DA3S15041311.html>

BBC (2021) Covid: Which countries are vaccinating children and why?

BBC (2020) Coronavirus: Inside a reopened primary school in the time of Covid-19.

Bergdahl Nina & Nouri Jalal (2020) Covid-19 and Crisis-Prompted Distance Education in Sweden. *Technology, Knowledge, and Learning*, 26, pp.443-459, doi.org/10.1007/s10758-020-09470-6.

Berlingske (2021) Barn i Midtjylland er død med coronavirus. For anden gang er et dansk barn smittet med coronavirus død, bekræfter Statens Serum Institut.

BØRNE-OG UNDERVISNINGSMINISTERIET :

Information til dag- og uddannelsesinstitutioner om COVID-19.

BØRNE-OG UNDERVISNINGSMINISTERIET (2020a)

Regeringen forlænger nedlukning af skoler og institutioner med to uger.

BØRNE-OG UNDERVISNINGSMINISTERIET (2020b)

Nye initiativer til forbedret fjernundervisning på vej.

BØRNE-OG UNDERVISNINGSMINISTERIET (2020c)

Bliv opdateret på retningslinjerne forud for skolestart.

BØRNE-OG UNDERVISNINGSMINISTERIET (2020d)

Minister inviterer sektoren: Erfaringerne fra COVID-19 skal nu samles ind.

BØRNE-OG UNDERVISNINGSMINISTERIET (2020e)

Alle partier indgår aftale om hjælp til sårbare og udsatte grupper.

Børns Vilkår (2021) Svigt af born in Danmark.

<https://bornsvilkar.dk/svigtrapport2021/>

CBC (2020) No masks, no distancing: Schools in Denmark

defy COVID-19 - with success so far.

Danske Skoleelever (2021) Skoletinget på Folkemødet.

DR (2020) Mette Frederiksen holdt også pressemøde for børnene: Se det her.

<https://www.dr.dk/nyheder/indland/mette-frederiksen-holdt-ogsaa-pressemuede-boernene-se-det-her>

Föreningen Covid19, Skola & Barn (2021)

<https://twitter.com/covid19skola/status/1460509107652288512>

Halldorsdottir Thorhildur, Thorisdottir Ingibjorg Eva,

Meyers Caine C A, Asgeirsdottir Bryndis Bjork, Kristjansson Alfgeir Logi, Valdimarsdottir Heiddis B, Allegrante John P, Sigfusdottir Inga Dora (2021)

Adolescent well-being amid the COVID-19 pandemic: Are girls struggling more than boys?, *JCPP Advances*, 1(2), 10.1002/jcv2.12027.

Joint Research Centre (JRC) (2021) The school year 2020-2021 in Denmark during the pandemic.

Loades Maria Elizabeth, Chatburn Eleanor, Higson-Sweeney Nina, Reynolds Shirley, Shafran Roz, Brigden Amberly, Linney Catherine, McManus Megan Niamh, Borwick Catherine, Crawley Esther

(2020) Rapid Systematic Review: The Impact of Social Isolation and Loneliness on the Mental Health of Children and Adolescents in the Context of COVID-19, *Journal of the American Academy of Child & Adolescent Psychiatry*, 59 (11), pp.1218-1239, doi: 10.1016/j.jaac.2020.05.009.

毎日新聞ウェブ (2021) 深刻な若者のコロナ後遺症「別世界に生きてみたい」軽症でも発症、2021年11月21日。

- Mikkelsen, Mille Borgen (2020)  
[https://twitter.com/Formand\\_DSE/status/1343989488587055104?s=20](https://twitter.com/Formand_DSE/status/1343989488587055104?s=20)
- NHK (2020) コロナの向こう側で(1)“全員が障害者”  
 で見えたもの 熊谷晋一郎さん。  
<https://www.nhk.or.jp/heart-net/article/364/>
- 能田昂・石川衣紀・田部絢子・高橋智 (2021) スウェーデンにおけるコロナ禍と子どもの発達危機に関する動向、『SNE ジャーナル』第 27 卷 1 号、pp.158-168、日本特別ニーズ教育学会。
- OECD (2020) 新型コロナウイルス感染症 (Covid-19) によるロックダウン中に教育の社会的成果が果たす役割とは。
- OsloMet (2021) Korona-nedstengingen har rammet familier med funksjonshemmede barn hardt.
- Salmela-Aro Katariina, Upadyaya Katja, Vinnilaakso Janica, Hietajarvi Lauri (2021) Adolescents' Longitudinal School Engagement and Burnout Before and During COVID-19-The Role of Socio-Emotional Skills. *Journal of Research on Adolescence*, 31(3), pp.796-807, doi: 10.1111/jora.12654. PMID: 34448301.
- Saxvig Ingvild West, Pallesen Ståle, Sivertsen Børge, Hysing Mari, Evanger Linn Nyjordet, Bjorvatn Bjørn (2021) Sleep during COVID-19-related school lockdown, a longitudinal study among high school students. *Journal of Sleep Research*, doi: 10.1111/jsr.13499.
- しんぶん赤旗：コロナ禍子どものニーズは？—懸命に生きる子どもの声のこしい—直面する困難、柔軟な対応力も、2021年11月23日。
- Sjögren Anna (editor), Engdahl Mattias, Hall Caroline, Holmlund Helena, Lundin Martin, Mühlrad Hanna, Öckert Björn (2021) Swedish children and youth during the COVID-19 pandemic: Evidence from research on childhood environment, schooling, educational choice and labour market entry, Working Paper, No. 2021:3, Institute for Evaluation of Labour Market and Education Policy (IFAU), Uppsala.
- Skolelederforeningen (2021) Claus Hjortdal: Specialskolerne fortjener ros.
- SOCIAL-OG ÆLDREMINISTERIET (2021) Hjælpepakke skal hjælpe udsatte børn og voksne og mennesker med handicap under de forlængede restriktioner.
- Specht Ina Olmer, Rohde Jeanett Friis, Nielsen Ann-Kristine, Larsen Sofus Christian, Heitmann Berit Lilienthal (2021) Changes in Emotional-Behavioral Functioning Among Pre-school Children Following the Initial Stage Danish COVID-19 Lockdown and Home Confinement, *Frontiers in Psychology*, 12, doi: 10.3389/fpsyg.2021.643057.
- Statista (2021) Number of coronavirus (COVID-19) cases in Denmark, by age and gender(as of June 15, 2021).
- Storebæltsskole :  
<https://storebaeltskolen.slagelse.dk/om-skolen>
- 高橋智・能田昂・石川衣紀・石井智也・田部絢子 (2022) 北欧諸国におけるコロナ禍と子どもの「いのち・生活・発達の危機」に関する動向—ノルウェーとフィンランドを中心に—、『日本大学文理学部人文科学研究紀要』第 103 号。
- The Local Denmark (2021a) Covid-19: Infections at Danish schools reach record level.
- The Local Denmark (2021b) Covid-19: Children amongst most infected in Denmark as new 2021 record set.
- 東京新聞ウェブ (2020) 学校再開—各国が対応に苦慮—登校拒否の保護者も続出、2020年5月31日。
- UNICEF (2020) 新型コロナウイルス・子どもの権利の危機を防ぐために最も弱い立場の子どもを守り世界で連携して行動を。
- UNICEF (2021) COVID-19 and School Closures: One year of education disruption.
- UNESCO, UNICEF, the World Bank, the World Food Programme and UNHCR (2020) New guidelines provide roadmap for safe reopening of schools.
- WHO : WHO Coronavirus (COVID-19) Dashboard.
- WHO (2021) WHO/Europe: Keep schools open this winter-but with precautions in place.
- 山野則子 (2021) 「コロナ禍における子どもへの影響と支援方策のための横断的研究」(令和 2 年度厚生労働行政推進調査事業・厚生労働科学特別研究事業)。  
 ※インターネットリソースはすべて 2021 年 11 月 22 日に最終閲覧した。



The Current Covid-19 Situation  
and “Crisis of Life and  
Development” of Children in  
Denmark

ISHII Tomoya, NOHDA Subaru,  
TABE Ayako and TAKAHASHI Satoru